

ることで、世間で揶揄されているような誤った認識も払拭される貴重な機会になると思います。保育体験の受け入れについては、理事長や園長の知己や園で独自の募集、また近隣の小中高校からの申し出等色々なツールがあると思いますが、今後は「保育体験等の受け入れ事業」の周知について、園が所在する各市町村の教育委員会や小中高校長会への働きかけなども必要になるかもしれません。

また平日は学校がありますが、夏期保育や運動会等の休日行事参加など受け入れが想定できると思います。

今年度は受け入れに際し、1回3万円の補助が出ていますので、ボランティア保険や学生への昼食代や交通費また終了後のおやつ代などに充当すると学生さんからも好評のようです。また園でボランティア証明書を発行することで、進学に際し活用できる場合があるようです。また体験の際にできるだけ学生と園児たちが自由に遊ぶ時間があることでより親密さが増え、少子化できょうだいが少ない中で、学生から見れば慕ってくれる可愛い弟や妹の存在、園児から見れば遊び相手になってくれる優しいお姉さんやお兄さんとしてお互いに嬉しいひと時になると思います。教育実習生とは違うので、ある意味楽しい時間を過ごす経験として捉えることが肝要です。

普通の学校ではできない保育体験(自由遊び等)を

通して、学生に園の良さを知ってもらうことで、次年度以降の体験希望者増加につながると思います。

今後の課題としては、近隣の小中高校との依頼やボランティア証明書の活用についてあげられます。例えば高校生がボランティア証明書をもらい、養成校を受験する際に、一定時間以上ボランティアをしたら何らかの配慮を受けられることで、養成校側も目的意識のある学生を入学させることにつながります。例えば受験料の減免や授業科目への配慮等が考えられます。

潜在的ニーズを掘り起こすことが将来の求人難への解決策のひとつとして、長い目で見ていくことが必要と思われるので、この事業を上手に活用していくことが大切です。

広報委員会 井出 渉

【引用文献】

- 1 職業安定業務統計
- 2 文部科学省(令和6年度教員免許状取得状況調査)
- 3 文部科学省(令和4年度学校教員統計調査及び令和4年度雇用動向調査)
- 4 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「高校生生活と進路に関する調査2024」
- 5 株式会社リクルートと一般社団法人全国高校PTA連合会共同による高校2年生とその保護者に対する進路に関する考え方やコミュニケーションの実態を探る調査(2023年)

子ども子育て支援新制度委員会研修会

令和8年1月16日(金)ホテルグリーンタワー幕張にて全日本私立幼稚園連合会副会長の内野光裕先生を講師としてお迎えし、「こども誰でも通園制度について考える」をテーマに研修が行われました。

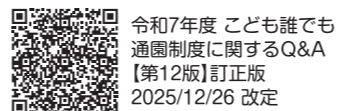
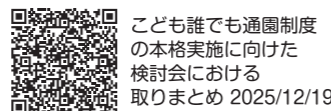
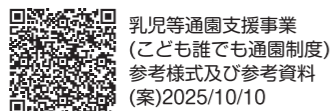


冒頭、内野先生からは国の保育行政の経緯と全国的な保育施設の動向について解説がありました。

その後子ども家庭庁の資料データ(下記にQRコードを記載していますので参照ください)を基に現在の制度についての解説、今後のスケジュールについて解説がありました。今後の検討事項についても各省庁と全日本私立幼稚園連合会で折衝を重ねているとの報告がされました。

その後、参加者からたくさんの質問が出る活発な研修会となりました。

広報委員会 澤 大輔



全千私幼 会報

(題 字)
元会長 故 山本 恭 雄



発行所
一般社団法人
全千葉県私立幼稚園連合会
〒260-0028
千葉市中央区新町18番地10
(千葉第一生命ビルディング8階)
☎ 043(242)5791
発行者 風間 一郎
編集者 広報委員会



保育者養成校情報交換会

7月29日に、千葉県私立大学短期大学協会の主催による「保育者養成校情報交換会」が千葉市内ホテルにて行われ、風間会長、井元教育研究副委員長とともに参加させていただきました。県内の大学・短期大学あわせて13校が集まり、情報交換が行われました。その中で、加盟園の皆様とも共有したい内容を、ここでご報告させていただきます。

実習日誌のICT化についてですが、手書きではなくPCを使用した日誌や指導案の作成が増えてきていることを実感している方が多いと思いますが、話題に上がっていたのはもう一歩進んだクラウドシステムを利用したペーパーレスの日誌や指導案作成についてです。富士フィルムシステムサービス㈱が開発し、各養成校に積極的に働きかけているようです。実習生の日誌や指導案がクラウド上に保存されますので、園の担当教諭、園長、主任、養成校教員と即時的に共有することができ、より丁寧な実習指導につながるということです。ただし、受け入れる幼稚園側はペーパーレスということで、担当する教諭一人ひとりがPCやタブレットを使用できる環境(台数やインターネット環境)がないと、日誌や指導案を見たり、添削したりすることができません。幼稚園側のICT整備が課題となってきます。積

極的に導入を検討している養成校が1校、興味を持って前向きに検討している養成校が3校程度ありました。

また、教育実習については、時間の使い方について発言が多くありました。実習生の休憩時間が十分に確保されないこと、実習日誌を帰宅後に取り組まなければならないことに、学生が負担感を持っていることとです。養成校の実習担当者は、幼稚園の働き方の現状に十分に理解を示した上で、社会全体で働き方改革が進む中、学生やその保護者に理解を求めることが難しくなっていること、それが幼稚園教諭離れの一因となっているのではないかと話がありました。昼食指導を含めた幼稚園教諭の働き方については簡単には変えられないという認識の下、保育後の夕方の時間帯に、学生に実習日誌や指導案を書く時間を確保してもらいたいというのは、多くの養成校実習担当者的一致した意見でした。学生の負担の軽減だけでなく、持ち帰りの実習日誌や指導案作成による寝不足を避けて、良いコンディションで日中に子どもと接することが大切ではないかという意見には、納得するところも大きくありました。

これらの内容には、様々なご意見があるかと思えます。ただ、保育者養成校も、少子化や保育を取り巻く

様々な課題の中で、厳しい学生募集状況に直面する中、学習環境を改善することで、少しでも保育者を増やしていきたいという思いを強く感じました。幼稚園側と保育者養成校側が、同じ方向を見

て、共に幼稚園教諭(保育教諭)を目指す学生を育てていくことが大切なのは言うまでもありません。参考とさせていただけたらと思います。

経営研究委員会 小島 孝昭

令和7年度教育研究員会活動報告

今、幼児教育にとって、さまざまな難しさを抱える時代を迎えています。“少子化”や“共働き家庭の増加”に伴う園児数の減少による「経営面での難しさ」、 “人材確保・育成”や“働く環境の改善”等の「運営面での難しさ」、あるいは(AIに代表される)急速に発達する技術との共存等、これからの時代を見据えた「教育面での難しさ」と、その難しさは多岐にわたります。しかし、いずれの課題においても、幼児教育に携わる私達は、“子ども”の存在を忘れてはなりません。

教育研究委員会では「教育の質の向上」と「幼児教育に関わる人材育成」を目的として、13名の研究委員の先生方とともに、年間12回開催する委員会ですさまざまな意見を交わし、研修会を企画・開催してきました。ここで各研修会につきまして、夏期に開催した「研修大会」と、年間13回にわたって開催した「一般研修会」のご報告をします。

また、全日私幼等の各団体との連携や県教育庁・学事課等の依頼に応じた人材派遣等、外部団体とも協力して教育活動を進めてきた事もあわせてご報告します。

①研修大会

例年同様、幕張メッセ国際会議場で開催した教員研修大会(開催日:7月30日)においては、1,068名と多くの先生方にご参加いただきました。午前中の鈴木みゆき先生(國學院大學教授)による基調講演及び午後からの8つの分科会で構成した教員研修大会は、大過なく終える事ができました。大会参加者アンケートでも、午前の基調講演と午後の8分科会、いずれも「4段階中の平均3点台後半」と高い評価をいただいています。



②一般研修会

保育現場においては、経験年数や役割に応じて求められる学びは多岐にわたります。これにあわせて「設置者・園長」「後継者」「中堅」「現任」「新任」等、多様な職務や経験年数にあわせた研修会を企画・開催してきました。また、保育現場で“もっとも関心の高い課題”との声を頂いている「特別支援」については、独立テーマの研修会として開催しています。

研修大会同様、各研修会においても多数の先生方にご参加頂き、ありがとうございました。(参加人数等の詳細につきましては、以下をご参照下さい。)

【後継者育成研修会】

●第1回(期日:6月25日/講師:大澤力先生 ※東京家政大学名誉教授)=34名

●第2回(期日:9月5日/講師:桶田ゆかり先生 ※十文字学園女子大学教授)=52名

【現任教員研修会】

●第1回(期日:6月18日/井桁容子先生 ※非営利団体コドモノミカタ代表理事)=136名

●第2回(期日:8月7日/神谷明宏先生 ※豊岡短期大学子ども学科教授)=54名

【新任教員研修会】

●第1回(期日:5月1日/寺田美子教研委員(助言者) ※聖徳大学兼任講師)=74名

●第2回(期日:8月7日/大成哲雄先生 ※聖徳大学教授)=60名

【特別支援研修会】

●第1回(期日:6月13日/赤木和重先生 ※神戸大学



大学院教授)=135名

●第2回(期日:10月27日/宮崎豊先生 ※玉川大学教授)=59名

【中堅教員研修会】

●第1回(期日:9月24日/砂上史子先生 ※千葉大学教授)=90名

●第2回(期日:12月10日/砂上史子先生 ※千葉大学教授)=82名

【設置者園長研修会】

●第1回(期日:12月3日/国崎信江先生 ※危機管理教育研究所代表)=50名

【参考】1月以降、開催予定の研修会

●第3回後継者育成研修会(期日:1月15日/川田学先生 ※北海道大学大学院教授)

●第3回中堅教員研修会(期日:2月4日/砂上史子先生 ※千葉大学教授)

～おわりに～

コロナ禍、働き方改革、AIの進化…さまざまな事をきっかけに、これまでの無駄を見直し、効率化を進め



る動きが活発になりました。もし10年前に戻って、「キャッシュレス決済が広がり、現金を持ち歩かない人が増えた」と言っても、ほとんどの人が信じないでしょう。私達の想像を超える程、時代の変化は急速で、ついて行くのも一苦労です。慣れ親しんだものがなくなる“寂しさ”はありますが、社会生活を送るためにはこの変化から逃げる訳に行かないでしょう。でも「時代の流れだから仕方ない」と闇雲に追ってばかりいては、ふと気付けば大切な何かを失っていた事にもなりかねません。「子どものために大切な事は何か」、その本質を見極めながら、より良い子どもの育ちが叶うよう、学びの場を創って行きたいと思えます。

最後になりますが、教育研究委員の先生方におかれましては、日々お忙しい中、委員会活動に熱心に取り組んで頂いた事に、この場をお借りして感謝申し上げます。また、研修会にご参加いただいた先生方におかれましては、研修会での学びが、日々の保育に活かされる事を願っています。

教育研究委員会 柴田 大輔

養成校との懇談会報告

令和7年11月18日(火)、ホテルポートプラザちばにおいて、「養成校との懇談会」を開催した。養成校担当者26校27名、連合会側から常任理事、経営研究委員あわせて15名が参加し、7つのグループに分かれて情報収集や意見交換を行った。テーマとして「学生の動向」「教育実習について」「就職活動、就職説明会について」などを主として話し合ったが、内容は多岐にわたり、充実した懇談を行うことができました。以下、当日懇談の中で出た内容の要旨である。

①学生の動向と就職先の選択基準

●地域性や、大学・短大・専門学校の違いにより差は出てくるが、平均すると、幼稚園教諭1~2割、保育士6~

7割、一般その他が1~2割の就職状況である。

●一般企業への就職もコロナ禍以降増加傾向にある。特に都内大学では、玩具、教材、子供服、写真スタジオ等の企業の給与や福利厚生に魅力を感じる学生が多い。

●公務員試験の早期実施や大量採用により、公務員保育士志望者が増加。保育園でも民間園の採用は厳しい環境である。ただし、採用増は自治体により年度差があり、来年も同様かは不透明である。

●養成校側は「保育内容」で選ぶよう指導しているところが多く、学生の園選びの基準として「保育内容」「人間関係」は優先順位として高い。しかし、給与や休日、奨学金返済の条件(指定地域での勤務)など、現実

的な条件も大きく影響している。

●一人暮らし志向による「家賃補助」と、「奨学金返済支援」への関心が高い。給与そのものよりも、こうした支援策が大きな魅力となる。

●求人情報が多数ある中で、園の「強み」や特徴が明確でないと学生の目に留まらない。

●長期休業中の預かり保育対応により、幼稚園の魅力だった長期休暇が短縮され、魅力が薄れている。

●幼稚園の年間変形労働時間制は、行事前の残業と長期休暇で調整する仕組みだが、学生には伝わりにくい。

●学生が意図せず斡旋業者を利用するケースがある。大学側は推奨しておらず、大学のキャリア支援課を通じて指導している。業者のデメリット（紹介料など）を伝え、注意を促している。お祝い金などに惹かれる学生には慎重な指導を行っている。

●実習体験が志望先に強く影響する。人間関係・雰囲気・口コミが重視される。

●4年制大学3年次教育実習で、実習から就職までの期間に空白が生じやすい。実習で声掛けされても後続の保育園実習等で意向が変わる例があり。実習後の継続的接点（アルバイト・ボランティア・見学会）を設定し、卒業年度までつなぐフォロー枠組みが重要である。

●保育園は午睡・食事時間に個別休憩を設ける園が増加している。幼稚園は「皆で昼食・お茶をする」文化を休憩とする場合がある。学生の中には「一人きりで過ごす時間＝休憩」という認識があり、ズレが生じるケースもある。

②実習指導について

●母園実習について、評価の公平性を担保するため、原則禁止としている養成校がある。その場合、母園とはボランティア等での関わりを推奨している。

●大学から依頼の場合、過去に実習でのトラブルの有無やその園の方針を考慮して選定されるが、養成校が実習園の保育の質や方向性で選別する動きも見られ

る。

●園として求める指導案の見本などを示してもらえると、学生がイメージしやすくなる。

●デジタル化の検討：富士フィルムなどが開発したウェブ上で記録を管理するシステムの導入が検討されているという情報があった。

●大学に入ってからピアノを始める学生が多く、大きな負担となっている。園ごとに課題曲数・独自曲の要求が異なる。10曲など過多な場合は負担が大きい。宗教色のある曲や独自曲への対応が難しい。

●実習先での厳しい指導（例：過度なピアノ課題、大量の実習ノート、理不尽な書き直し指示）が原因で、学生が幼稚園を敬遠する事例が問題となっているとの報告がある。

●園による勤務待遇の差が大きい（休憩の有無、昼食時の扱い、実習時間外の園滞在時間等）。

●実習日誌：作成時間を帰宅後ではなく実習時間内に確保することが望ましいとの意見があった。園によっては勤務時間内に実習日誌・指導案作成や休憩時間を設けるなど、環境改善の動きもある。

③就職活動について

●短大生は実習終了後の10月以降、4年制大学の学生は3年次の3月頃から動き出す傾向がある。

●園見学・訪問等の就職活動は実習終了後が原則としている学校が多い。6月の幼稚園実習後に見学希望が増えるため、実務的には7月開始が現実的ではないかとの意見がある。

●学生は「縁のない園へ自分から連絡すること」の心理的ハードルが高いため、連絡可能時間の明記等が有効である。

●早期開催の利点は機会認知と考えられる。5月は認知目的、7月に具体的活動の二段構え案が前向きである。5月開催は、早く情報を得たい学生にとっては有益であるという意見がある。

経営研究委員会 小島 孝昭



●●● 保育体験等の受入れ事業について「百聞は一見に如かず」

今年度から千葉県で「保育体験等の受入れ事業について」として、幼児教育における将来的な人材確保につなげるために、幼稚園等が小学生、中学生や高校生の保育体験等の受入れに対して補助事業が開始されました。

園の求人とはどの園でも厳しい状況が続いています。全千葉主催の就職説明会でもブースを出す園は増える一方で、学生の来場者は年々減少しています。実際に幼稚園教諭・保育士の有効求人倍率の推移を見ても平成28年度の幼稚園教諭は1.30、保育士は2.03、全職種1.22から令和6年で幼稚園教諭2.71、保育士2.95、全職種1.14です¹⁾。幼稚園教諭免許を取得した学生が就職先に幼稚園（認定子ども園）を選んだ割合は28%です²⁾。

また幼稚園（認定子ども園）に就職しても、25歳未満離職率は26%、30歳未満では58%にのぼり、同じ学校と比較しても30歳未満の離職率をみると小学校12.8%、中学校11.6%、高等学校15.1%と際立っています。全産業でも34.7%です³⁾。

文部科学省や子ども家庭庁も養成校の学生の多くが他業種への就職をしていることや平均勤続年数が少ない等、教育の質的向上の根幹にかかわる問題として、令和7年度に「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の職の魅力向上・発信事業」や令和8年度では民間の有料職業紹介事業者による高額な紹介手数料による園経営圧迫を踏まえて、「幼稚園教諭等の人材確保のための人材バンク創設・コンソーシアム構築事業」の予算を要求しています。

今後益々少子化が予想される中で、人材確保を図る意味でも養成校への入学者を増やすことは急務です。世間では幼稚園や保育園は「人手不足」「不適切保育」、「ブラックな職場」「命を預かる責任対価に見合わない処遇」「多様な価値観を持つ保護者対応」「職場の人間関係」等負のイメージがとかく話題になりがちです

が、全国の幼稚園、認定子ども園や保育園のほとんどは真摯に乳幼児と向き合いながら心身の成長を育て、地域の信頼も得ながら頑張っています。そうした園で保育体験することで、乳幼児教育の素晴らしさと先生としてのやりがいを感じ、将来の仕事の選択肢のひとつになると思います。

今年から開始した「保育体験等の受入れ事業について」も上手く活用しながら、小学生、中学生や高校生を出来るだけ受け入れることが大切です。特に高校生は近い将来の職業選択にも関わるだけに、この仕事の素晴らしさを知って欲しいと思います。

実際に男女別の女子のなりたい職業では中学校・高校生ではいずれも教員、看護師について幼稚園教諭・保育士は3位です。小学校でも店員（花屋・パン屋）、看護師について第3位です⁴⁾。

また別の統計データでも高校2年生女子の就きたい職業では看護師、教員、医師（歯科医師・獣医）について第4位ですし、保護者からも子どもに就かせたい職業として医師（歯科医師・獣医）、看護師、公務員、教員、薬剤師について第6位です⁵⁾。

そうした潜在的なニーズがあるだけに、前述した負のイメージに見られがちな園（職場）を実際に体験す

